

令和5年度 金ヶ崎町立三ヶ尻小学校 研究計画

Ⅲ 研究部

1 本年度の研究・研修計画

(1) 研究の基本的考え方

- ア 学校教育目標達成のため、各種の研究・研修を通して教員自身の専門的知識を高め、実践的指導力を養い、児童の変容を期待する。
- イ 校内の実践上の問題解決を図るため、共通テーマのもと、研究体制の確立を図り、組織的、計画的な研究活動を進める。
- ウ 研究・研修活動における理論と実践を一体化し、一人一人の授業力を高めるようにする。
- エ 児童とともに学び、ともに成長するように、常に自己変革を目指し、求め続ける姿勢で研究・研修に取り組む。

(2) 方針

- ア 授業研究を実践し、児童の姿を通じた研究協議を深める中で、授業の質的向上を図る。
- イ 研究主題を設定して、本校の教育課題解決のため、研究を深める。
- ウ 主題研究の他、特別支援教育、実技研修、生徒指導などにおいて、共通理解を深め、日常の教育実践に生かす。
- エ 日々の授業実践では、常に反省、評価を加え、次の授業の改善の手がかりとする。

(3) 本年度の重点

- ア 主題研究において本校の課題を踏まえ、効果的な指導法の工夫や改善に努める。
- イ 年度初めに研究内容についての共通理解を図り、教員個々の見通しをもった授業改善の推進に努める。
- ウ 特別な支援の必要な児童への配慮の仕方やよりよい学級集団作りについて学ぶための学習会を年間計画の中に設定し、指導力向上を図る。
- エ 外国語教育の質の向上、ICT活用の推進に向けた学習会を設定し、教職員間の共通理解を図るとともに、指導力向上を図る。
- オ 各種研究会への参加及び伝講を行い、職員の専門性、指導力、授業力の向上を図る。

2 主題研究

(1) 研究主題

「わかる」「できる」を目指し 主体的に学ぶ児童の育成
—算数科における授業改善を通して—

(2) 主題設定の理由

ア 今日の課題から

学習指導要領算数科においては、「数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、数学のよさに気づき、算数と日常生活との関連についての理解を深め、算数を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程や結果を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を育成することを目指すこととした。」と示されている。

児童が基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題

を解決するだけでなく、数学的に考える資質・能力を育成することを目指すためには、児童が問題を自身のものであるとして捉え、自ら考え粘り強く課題解決に取り組むことが大切であると考え。そのために、これまでの指導の在り方を見直し、学習の質を高める授業改善の取組を推進していくことが必要である。本校の課題となっている、主体的に問題解決に取り組む姿勢や、身に付けた知識や技能を活用していこうという意欲をもった児童の育成の実現に向け、算数科における授業改善について推進していくこととした。

イ 学校教育目標の具現化から

本校では、「確かな学力を身に付け、豊かな心の育成を図り、健やかな体をはぐくむ」を基本目標とし、具体的な教育目標に「自ら学ぶ子ども」「心の豊かな子ども」「たくましい子ども」を掲げ、知・徳・体の調和が取れた、確かな学力・豊かな人間性・健康と体力をもとにした生きる力の育成を目指している。

算数科における授業改善に取り組み、課題に対して自ら思考、表現しながら関わっていくという主体的に学ぶに向かう児童の育成をめざすことは、本校の教育目標の具現化につながるものと考え。

ウ 研究経過と児童の実態から

本校の児童は、明るく素直であり、与えられた課題について一生懸命取り組む児童が多い。昨年度、「『わかる』『できる』を目指し 主体的に学ぶ児童の育成」を主題に掲げ、算数科の学習を中心に研究に取り組んできた。算数科における「主体的に学ぶ児童」の具体の姿について共通理解を図り、「学習の見通し」「解決に向かうための学習活動」「学習の振り返り」を重点とし、目指す児童の姿を明確にしながら授業改善に取り組んできた。日々の授業改善を通して、児童の課題意識や解決への意欲の高まりが感じられたり、解決への見通しをもち一人学びに取り組んだりする児童の姿が見られるようになってきた。また、友達と学び合う中で、少しずつ自分の考えを表現しようとする児童が増えてきている。

しかし、相手意識をもって自分の考えを他者に伝えたり、説明したりすることが苦手な児童は依然として多い。また、学習に向かう意欲の個人差も大きい。このような課題をふまえ、既習の定着及び活用する力、児童自らが課題意識をもち、考え、表現しながら課題解決に向かっていく力を付けていきたいと考えた。

そこで、今年度も算数科の学習過程において「学習の見通し」「解決に向かうための学習活動」「学習の振り返り」を重点に授業改善を推進することで、児童が自ら気づきや問い、見通しをもちながら課題を解決しようとする「主体的に学ぶ児童の育成」を目指したいと考え、本主題を設定した。

(3) 主題についての基本的な考え方

ア「主体的に学ぶ」とは

- ・問題に対して児童が自ら問いや課題意識をもち、課題解決に向けて思考、表現しながら関わっていくこと。
- ・児童が解決への意欲や見通しをもちながら、粘り強く取り組んでいくこと。
- ・学習方法や課題解決の過程を振り返ったり、新たな問いを見いだしたりすること。

イ「主体的に学ぶ児童」の具体の姿

- ・意欲的に問題に取り組もうとする児童
- ・既習を活用しながら、見通しをもって課題を解決しようとする児童
- ・進んで課題解決に取り組む、問題場面を式や図などに表そうとしている児童
- ・自分の考えを友達に伝えようと、算数用語や式などを関連付けながら表現している児童
- ・友達の考えを受け止め、自分の考えと比べながら聞いたり、わからないことを質問したりしながら、よりよい解決の仕方を身に付けようとする児童
- ・学習したことを別の場面でも生かそうとしている児童

発達段階に応じた目指す児童の姿

低学年	中学年	高学年
数量や図形に進んで関わり、粘り強く問題に取り組もうとする児童	問題場面から既習との違いに気づき、粘り強く問題に取り組もうとする児童	問題場面から自ら課題を見つけ、粘り強く問題に取り組もうとする児童
どの方法が使えるそうかを自分で決めて課題を解決しようとする児童	既習を活用しながら、見通しをもって課題を解決しようとする児童	既習の何が使えるかを判断し活用しながら、見通しをもって課題を解決しようとする児童
進んで問題解決に取り組む、問題場面を式や図に表わすことや具体物の操作を試みようとする児童	進んで問題解決に取り組む、問題場面を式や図などに表そうとしている児童	進んで課題解決に取り組む、目的に応じて多様な表現方法を用いながら、解決しようとする児童
自分の考えを友達に伝えようと、具体物や図などを用いて表現しようとする児童	自分の考えを友達に伝えようと、算数用語や式を使って表現しようとする児童	相手意識をもち、自分の考えを友達に伝えようと、算数用語や式などを関連付けながら表現しようとする児童
うなずいたり、反応の言葉を交えたりしながら友達の考えを聞き、理解しようとする児童	友達の考えと自分の考えを比べながら聞いたり、わからないことを質問したりしながら、相手の考えを理解しようとする児童	友達と自分の考えを比べながら聞いたり、わからないことを質問したりしながら、表現・処理したことを多面的に捉え、よりよい解決の仕方を身に付けようとする児童
学習したことが生活や学習などの別の場面でも使えるそうかを考えようとする児童	学習したことを生活や学習などの別の場面でも使おうとする児童	算数のよさに気づき、学習したことを生活や学習に生かそうとする児童

(4) 研究目標

主体的に学ぶ児童を育成するための算数科授業の在り方を探る。

(5) 研究仮説

算数科の学習過程において、児童の実態に応じた授業改善を図ることにより、「わかる」「できる」を目指し、主体的に学ぶ児童の育成が図られるであろう。

(6) 研究内容

ア 学習の見通しにおける手立て

(ア) 解決への意欲を高める課題設定

児童の問いを引き出し、解決する必然性のある問題場面や学習課題を設定することで、児童が意欲的に課題解決に向かうことができると考える。

(イ) 課題解決の方法や過程についての見通し

自分の力で解決できそうだという見通しをもつことで、児童は課題解決への意欲を高め、粘り強く取り組むことができるようになる。児童自身が答えや方法の見通しをもつことができたり、学習過程についての見通しをもつことができたりすることで、主体的に解決に向かうことができると考える。

イ 解決に向かうための学習活動における手立て

(ア) 目的を明確にした一人学び

見通しをもとに、一人学びで何をどう考えればよいのかを明確にすることで、児童自身何が分かるのか、どこまで分かるのか、何が分からないのかがはっきりとする。それを学び合いにつなげていくことでより主体的に解決に向かおうとする意識や態度が高まると考える。

(イ) 目的を明確にした学び合い

学び合う場面で、一つの考えに着目させたり、考える内容を限定したりするなど、学び合いの焦点化を図る。このことから、視点をもって考えたり説明したりすることができるようになると共に、友達や教師と関わり合いながら本時の課題の解決や自分の分からない点の理解につなげることができると考える。

ウ 学習の振り返りにおける手立て

(ア) 学んだことを生かす適用問題

本時で学習したことを用いて問題を解くことで、児童自身が本時の学びを振り返ることができる。また、適用問題に確実に取り組ませることが学習の定着につながると考える。

(イ) 視点を明確にした振り返り

単元などの内容や時間のまとまりごとに、教師がねらいを明確にもちながら振り返らせることで、児童が自分の学びを実感することにつながると考える。

(7) めざす子ども像

ア 学習したことを生かしながら、自ら考え課題解決に取り組もうとする子ども

イ 「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という気持ちをもって意欲的に学ぼうとする子ども

ウ 自己の学びを振り返り、成長を実感できる子ども

(8) 研究の計画

令和5年度

ア 研究の方向性の共通理解

(ア) 主題研究計画の吟味

(イ) 研究の目標、仮説、内容の共通理解

(ウ) 指導案の形式、授業改善の重点

イ 授業実践

ウ 研究のまとめ

(9) 研究の方法

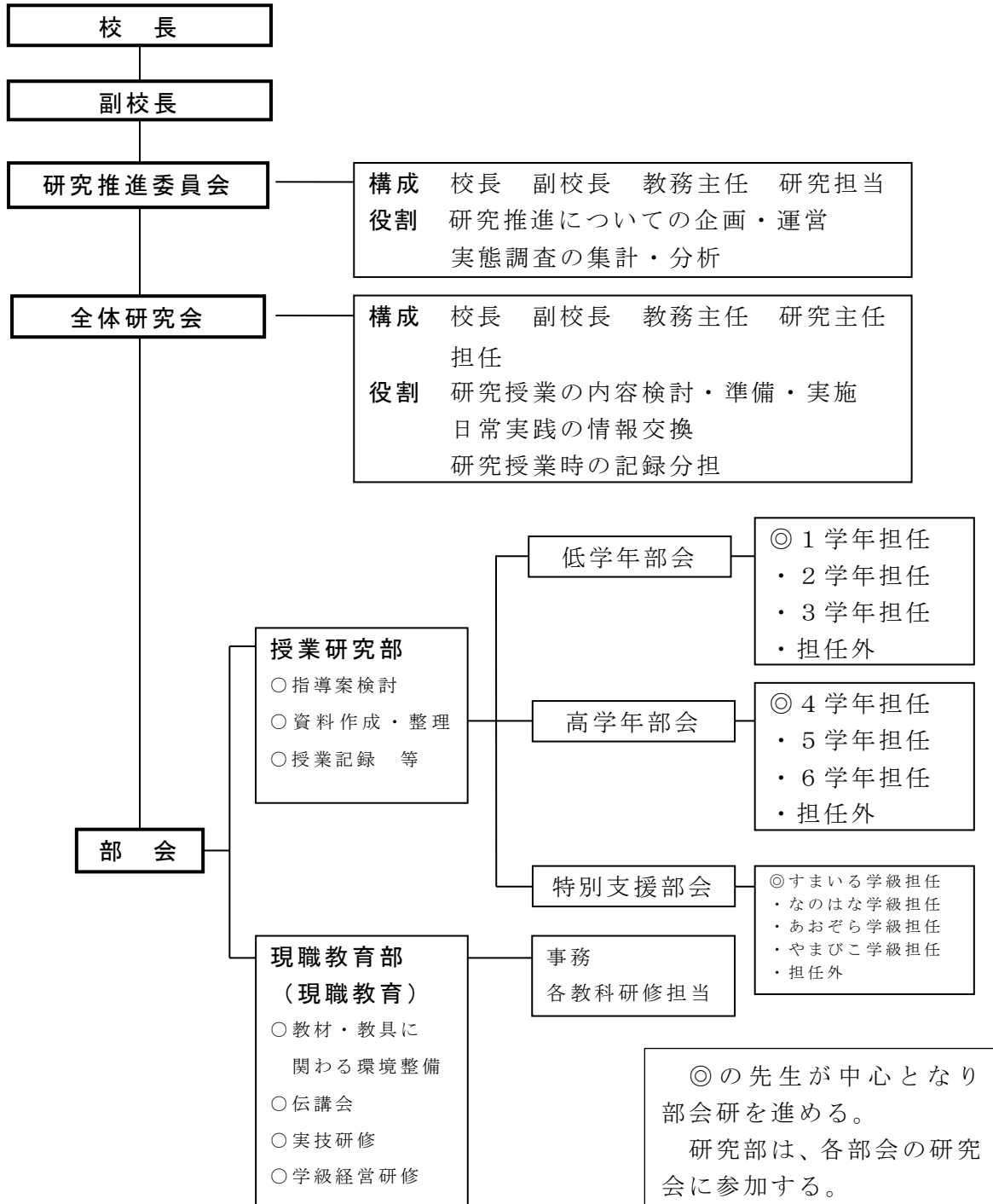
ア 仮説に基づく日常の授業実践

イ 目指す児童の姿の実現に向けた教員個々の主体的な授業改善

ウ 児童の学びを支える学級づくり

エ 先行研究や資料文献による理論研究

(10) 研究の組織と運営



(11) 研究の全体構想図

